

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

2005年4月からBCGの接種方法が変更になります。

2005年3月まではツベルクリン反応陰性者にBCG接種が実施されてきたが、4月以降は直接BCG接種が導入されツベルクリン反応によるスクリーニングが実施されなくなる。そのため、結核菌に感染したことがある人にBCGを接種した場合に起こるコッホ現象（健常者がBCGを初めて接種した場合は、接種後10日頃に針痕部位に発赤が生じ、接種後1月から2月までの頃に化膿巣が出現する。一方、結核既感染者にあっては、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び針痕部位の化膿等を来し、通常2週間から4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあり、これをコッホ現象という。これは、BCG再接種において見られる反応と同

一の性質のものが結核感染後の接種において比較的強く出現したものである。：平成17年1月27日付け 厚生労働省健康局長通知（健発第0127005号）定期の予防接種の実施について 別添 予防接種実施要領より）を届け出るシステムが導入される。接種時に保護者への十分な説明が求められる。

また、定期接種の対象年齢が4歳未満であったところが生後6か月未満に短縮される（図1）。生後3か月以内での接種は、先天性免疫不全症の患児に接種してしまう危険性を考慮して、日本小児科学会では生後3か月～6か月での接種を勧めている。

